

女子  
必要  
普通裁縫書  
中尾宗七編輯  
上

図書 和図書 週



a 1 3 8 0 3 2 7 1 3 7 a

福岡教育大学蔵書

T1A1  
59  
N 41



東尾宗七編輯



# 普通裁縫書

版權所有

前川文榮堂



凡列

一普通女子の學習をへき藝術たりや、固より其端緒  
 多しと雖も殊にその緊用急務なり、裁縫を以て  
 最となす、今や各校に附属し女子手藝の一局を設  
 け、専ら裁縫を教ふるが如き、其旨洵に深し、故を以  
 つて、裁縫指南初步の書、陸續鐫行して、大に此の盛  
 舉を裨補するもの、蓋し尠しやせ、獨り憾む、其書  
 概ね實地經驗上より出て、或は想像摸索より出  
 で、書中觀るべき如きもの、或は裁手より施すに至る  
 動をすれば、相矛盾するに憂ひ無き、保し難し、本

普通裁縫書

凡列

一

書の如き、編者自ら多年熟行経験して、其要點を  
適し、多る者を選び、順次編成せし、皆文部發令の  
女子手藝綱領を基き、先づ運鍼の法よりして、序次  
を逐ふて、漸く粗よと精よ入らしむ  
一本編の兩卷は、女子の尤も、日用切近の者を蒐め、一  
一圖解を施し、其の積り方より、成功上の恰好雛形  
を示し、觀る者をして、心手相應トて、其要領了得  
せしめんことを旨とし  
一附録の卷に至ると、更し洗濯張物の大要と、頭巾  
足袋、裨褙、無て洋服法衣、諸裝束等、凡そ百般の要法

を悉く理會せしむるは、其の詳細の如き、  
一々あし、小技擧を、あらむ、暇あらむ、本文不就、瞭解  
を、  
も、

明治十六年九月

編者 識



- 衣服縫方の順序
- 伏縫及戻縫の法
- 紐の紵方
- 解物の方法并心得
- 衣服寸尺の取方及順序
- 前垂腰巻及風呂敷の縫方
- 單襦袢の裁縫方
  - 一 身襦袢の裁縫方
  - 四 身襦袢

本身男襦袢

- 通常本身衣服籠附法
- 常中物單衣裁縫方
  - 一 身小單衣裁縫方
  - 一 身大單衣裁縫方
  - 一 身廣衽衿山継裁縫方
- 通常三身裁縫方
- 三身廣前裁の裁縫方
- 四身摘み衽裁縫方
- 四身逆衽の裁縫方

本身女襦袢

四身車裁の裁縫方

間中裁縫方

本身棒裁の法

本身鍵裁の裁法

本身下前継棒裁の法

本身柳裁の法

○女合羽裁縫方

通常女合羽の法 帶溜付女合羽の法

○躰系の掛方及襷物の仕方

○洗濯及ひ張物の略法 以上

普通裁縫書卷上

大阪 中尾宗七 編輯

東京 吉井孝平 考訂

○裁縫用器具の名稱

針箱 尺 鋏 指環 針籠 烙 鋸 火熨斗 糸巻 裁刀 袖形 裙形 裁板 等 あり

○諸器具用法并心得

針箱

鍼箱ハ總て糸系卷其他小雜具を納るゝものにて、上小針刺を附けあるを通常と以近年ふ至りてハ多く

懸針を針刺の傍に附け、簡便とせり

尺

衣服の寸法を度るに、必用の具あり、其表或は裏へ反りたるを用ゆるるらず、自ら差異を生ずるものあり

鋏

鋏ハ布及び糸等を裁切する器なれども、能く其利鈍を試み用ゆべし、又一度ふ二三枚以上を裁べのらば

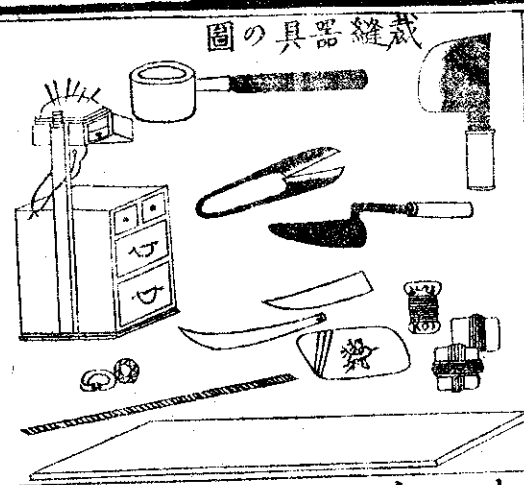
指環

厚紙、金及革等の製あれども、指を刺さぬ為なれば、多く用ゆるふ、革もて製したるを宜しとせ

針

針、小木綿綯の區別あり、木綿針ハ大チヤボ、小チヤボ及び、大グケ等あり、縫紉共小用ゆべし、綯針ハ綯縫紉縫及び、サラシ、中ザラシ、長紵等の種類あり、總て針を

持扱ふときハ、留針待針等を刺し、たる儘捨置のぬ様注意すべく、又粗漏おきよふ、時々其數を改むべ



裁縫器具の圖

○運針法并雜中の刺方  
針を持つ小々、先づ右手ある將指

針通成縫書 卷一 前川氏藏

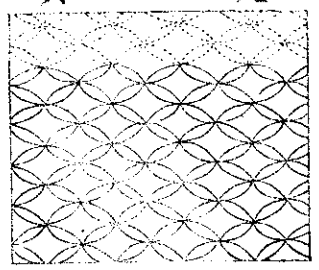
の第一と、第二の拳の間、指環を箝め、其針の耳、ある所を、指環にあて、爾して食指と、拇の頭、あて、針と糸とを共小撮み、他の三指を握り、布を持つに成るべく力を入き、布の片端を左手小て持ち、布の裏へ食指をあて、拇を表つゝあて、表より裏の方へ針を通すなり、此時両手小布を持ちたる儘、少く下へおろし、又裏より表へ針を通すとき、上へあげざるあり、漸次斯の如くなり、針目の能く揃ふ様ふ、右の端より左方へ縫ひ進み、然して之を縫ひあげて後、縮まぬよふ能く伸ばし、一方の端若くは、止め針の所へ向け縫進むべし、但

一縫法を學ぶ小ハ、必ず行儀正しく坐すべし、此法列縫と稱し、用布を木綿とし、縫方ハ形紙或ハ、篋を以て印を附け、白地なれば紺若くハ、黒糸にて縫ひ、刺し畢りてハ、又抜き、幾回も斯の如くあり、裏表の縫目、大小差違ふ様小至るまで、熟練すべし、初學のも此、此グ縫の法を習練せずして、衣服等を縫ふことを為すべからば、其刺し方ふ又種々の模様あり、これを雜中と云ふ、左に掲げたる圖の順序ふ随ひ、次第易より難小移るるなり

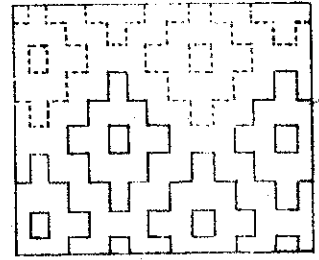
雜中の圖



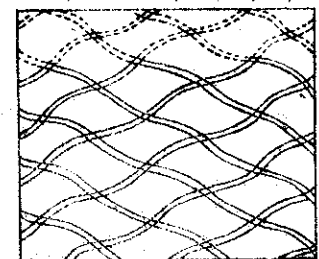
寶七菱



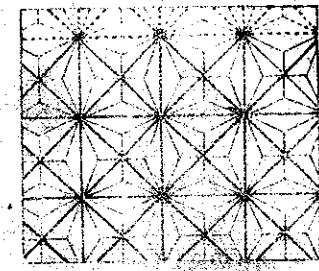
キビチハ



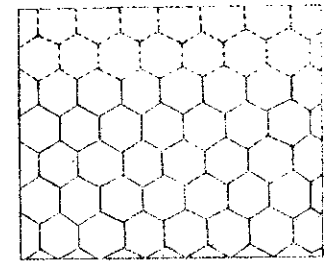
キスダ取



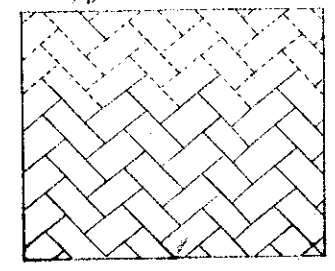
形葉麻子



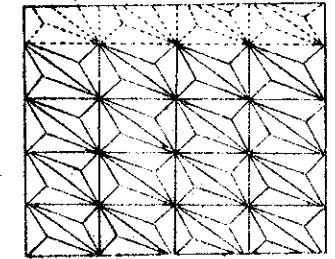
形甲亀



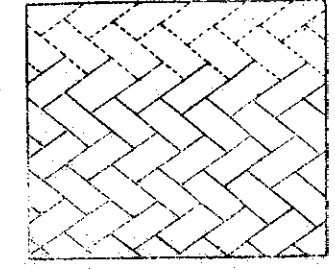
形口ジア



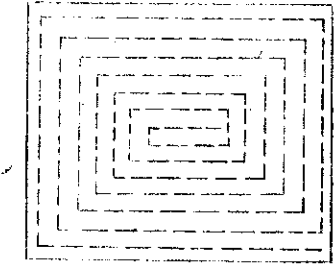
形麻子



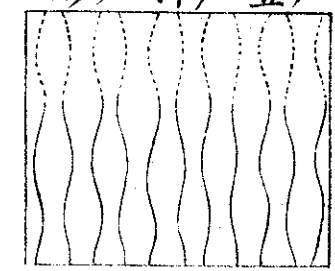
キガヒ



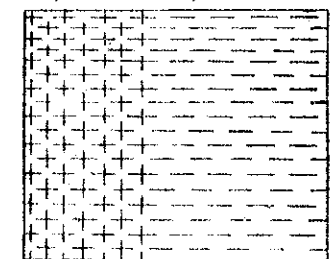
巻渦角



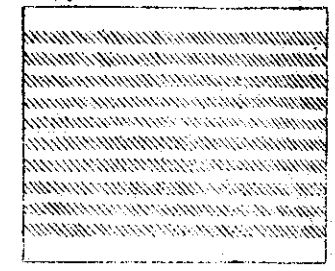
形梓堅



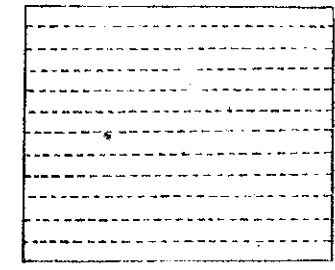
リスガ十及コシヤ



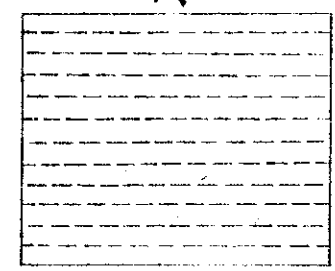
筋千形絹



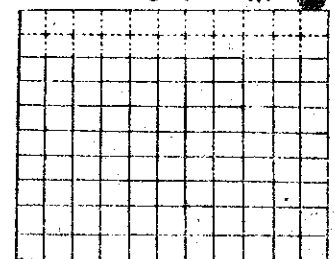
筋千



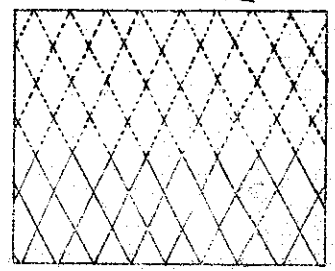
同



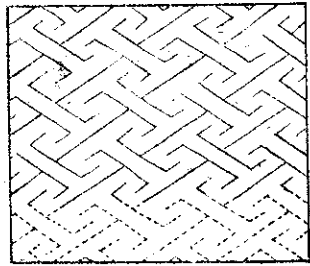
形盤基



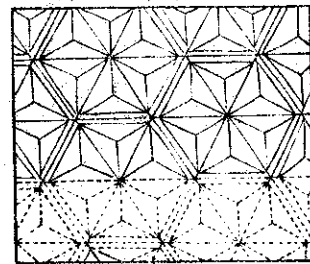
形菱



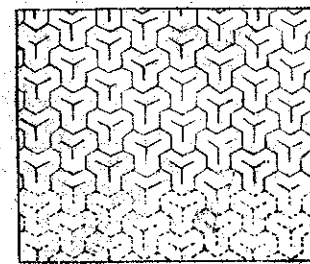
シ崩一菱



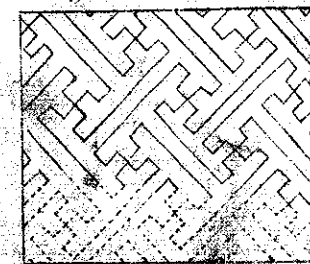
麻甲魚



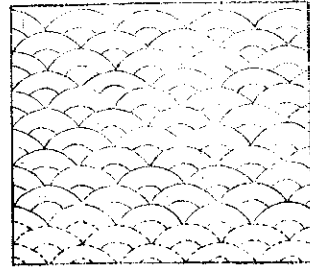
甲魚門沙毘



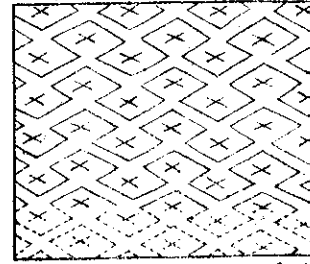
形字萬



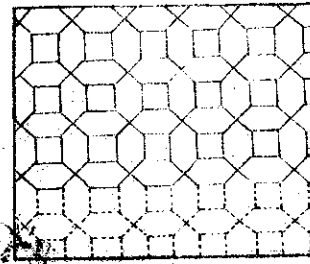
波海青



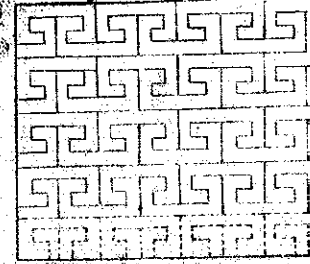
菱重二



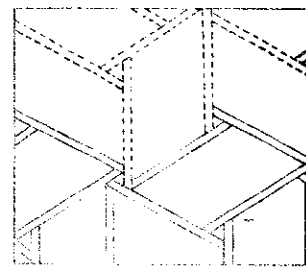
甲魚香燒



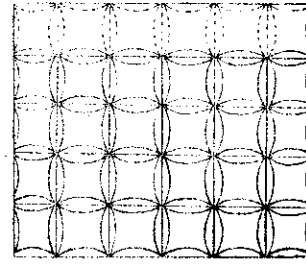
シ崩一



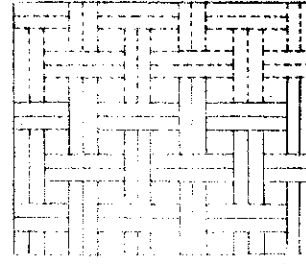
キガヒ甲魚



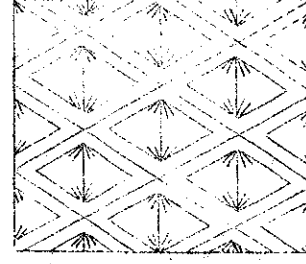
寶七重三



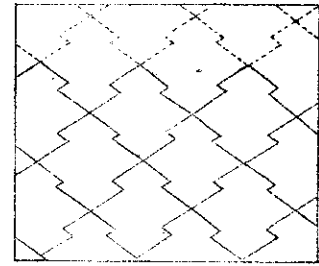
崩二



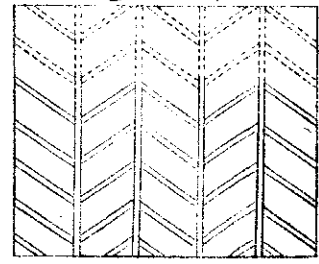
引骨扇



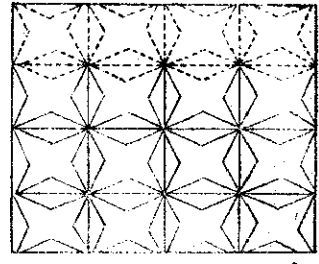
菱川松



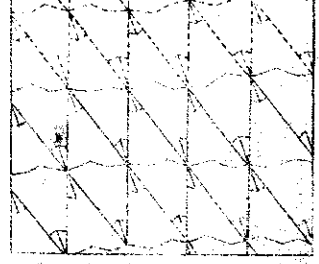
違矢

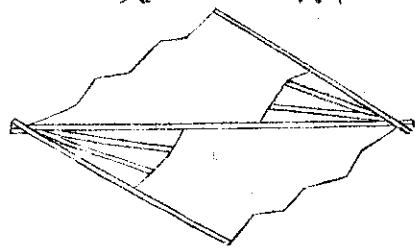
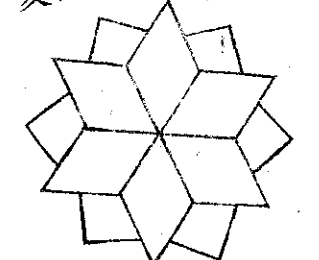
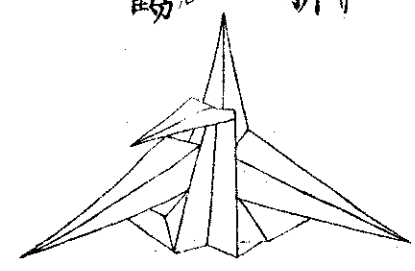
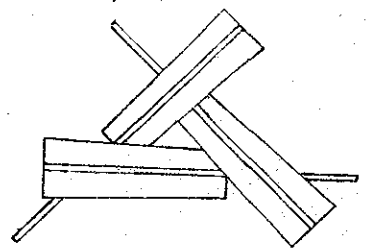
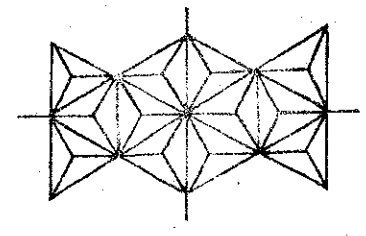
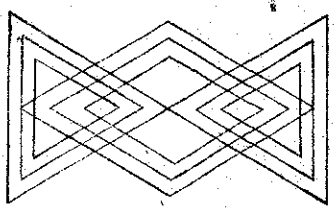
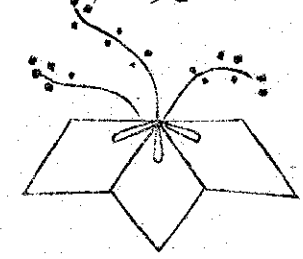
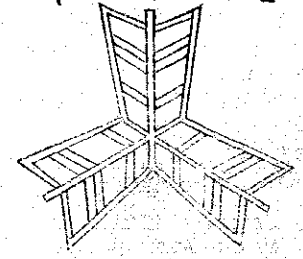


形麻一

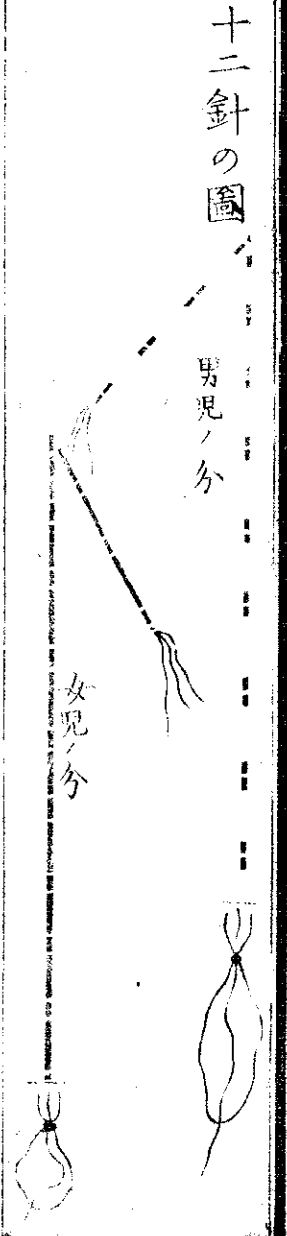


形語搔扇



<p>菱 扇</p> 	<p>菱 六重</p> 
<p>鶴 折</p> 	<p>扇 三重</p> 
<p>形 麻</p> 	<p>崩 菱 重</p> 
<p>桐 梗 桔</p> 	<p>車 矢</p> 

十二針の圖



籠

籠の總て、裁縫代及び袖裙形の目標を附ける器なり、  
筋目正しく印すべし、又緊しく畫するに宜しからば

烙 罎

烙罎の熨まりたる時、一度白紙をあて試み、其  
用の衣裳の折目及び縫目等を正しくなす為あらば、  
煤等のなき様心を用ひ熨むべし、又安りに布の上

置くよと勿き

火熨斗

衣服を縫ひ上げた時縫目其外熨斗すべし能く  
火勢の適度を見て白紙ふあて試み後ち縦横を正し  
く去り熨斗すべし

糸巻

糸を纏ふ具ふん解け亂れぬ様強く巻くを善しとい

裁刀

裁刀を用ゆる時へ能く其利鈍を檢まべく又安りに  
布の上小載せ置くこと勿き

袖形

袖を縫ふに當り其形を畫する不用ゆる器なり

裙形

恰好よろしきハ形を用ひて宜しけきども其形を畫  
する一定おらざるを以て籠を用ゆるなり

裁板

裁板定木共平直なるを用ゆる一又新しき板を脂  
の出づるよとあり用ゆべくらば元布帛を裁切する  
器ふれども成るべく鉄を用ゆる裁宜しとい

○衣服の名及所

衣服を裁縫するに先づ通常の物小就き能く其名  
 及所裁記すべし、左小掲けたる圖面ハ其大概を示す  
 可也

又裁縫上入用ある普通の文字裁知らざる者  
 宜しく左に記したる裁記臆し置くべし

衣服の部

身頃 袖 衿 丈 脊縫 後幅 前中 肩幅  
 後幅 袖中 衿中 腋縫 袖丈 衿丈  
 袖附 抱揚 行 袖口 袂 衿縫 袖先 衿下  
 衿肩 衿先 三ッ衿 相裙 衿下 衿名 衿下  
 衿口

袴の部  
 紐附 前下

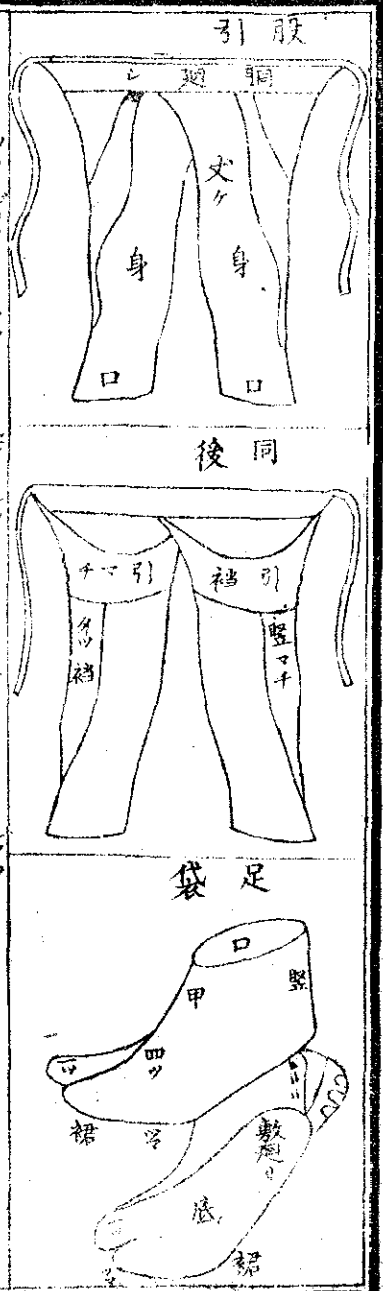
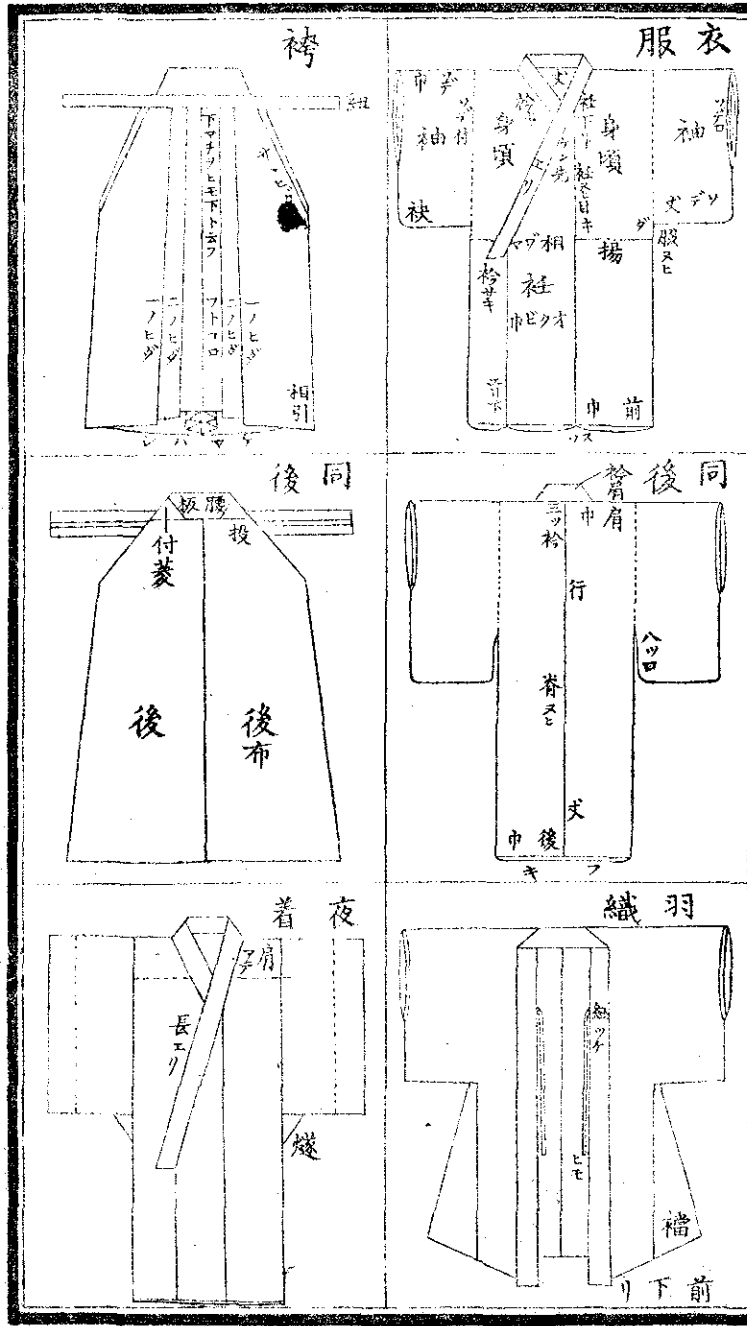
紐下 紐二の裱 一の裱 懐 相引 股 腰板  
 附菱 後布 蹴廻

夜着の部  
 肩當 燧

長衿 股引の部  
 丈身 襠口 胴廻 引襠 豎襠 紐

一ツ 裙 四ツ 甲 豎 底 口

名所圖解



○通常衣服の性質及位置の名稱  
 衣裳ハ帛類を以て製したるを、小袖と云ひ布類を以て  
 仕立たるを、綿入或は布子と稱す  
 棉布ふて作りたるハ、浴衣等の類少ク、麻類以て製せ  
 る袷衫といひ紙を以て織りたるを、紙布と云ふ  
 襦袢ハ肌を着け、其上小胴着及下着を著け上を着け

るを羽織と云

潤袖カミの粗綿ホホ入ホクは同ト、綿ワタを多く入トき、綴トたるを云ふ。夜着ヨキとは、潤袖カミの大オホあるものを云ふ。蒲團ワタふ三巾サン四巾シ五巾ゴ等の區別カクあり、裏ウラハ總スベテて表オモテハ一巾イツ増マシ、縫ヌイ上げセウるを通例ツウとし、夜具ヤグとい之ノを總稱ソウして、云イふなまを蚊帳カキハ、大小種々オホコチあれども、通常ツウ廿八巾ニヤハチ夫六巾ウツロクの割合ハカを以て作ツクるなり、多くハ麻布アサ紹紗シウなどを以て、作ツクる。

○通常衣服の寸法ハシ普通重立フツたる寸尺ハシを記するのみ、其他ナニも銘々ナニの適宜タシ小すべし。

- 一ッ身小 丈二尺 袖丈七寸 袖巾五寸
- 一ッ身大 丈二尺五分 袖丈一尺三寸 袖巾六寸餘

- 四ッ身男 丈三尺 袖丈一尺四寸 袖巾七寸五分
- 四ッ身女 丈三尺 袖丈一尺五寸 袖巾八寸

- 本身男 丈三尺寸 袖丈四寸 行七寸 袖口七寸五分
- 本身女 丈四尺 袖丈五寸 行六寸 袖口六寸

- 裙七寸 前身七寸 後身八寸 衽巾四寸
- 裙二尺 前身六寸五分 後身七寸五分 衽巾四寸五分

- 羽織男 丈二尺六寸 袖丈四寸三分 行七寸二分
- 羽織女 丈二尺三寸五分 袖丈五寸三分 行六寸二分

- 袴 丈二尺一寸五分 腰板六寸五分 相引一尺五寸

○衣服疊方の順序

一身の衣服を疊む方



裁縫の練習の圖

一身の衣服を疊む方  
 一、先づ左手小脇筋の袖下を持ち、  
 右手小脇筋を持ち、其下前の上へ、  
 上前を重ね、次は又其上へ、下前の  
 袖を脇筋より折り、又其重ねたる  
 上へ、上前の袖を折り、裾襷を除き、  
 中央より二個小折りたるを、又半  
 折マシマシするべし

本身疊む方

第一、左手小脇筋の袖下を持ち、

右手小脇筋を持ち、下前の衽を己の方へ折り返し、二は  
 上前の裾を右手小脇筋に持ち、衽附を左手に持ち、其上へ載  
 せ、右の上前の脇筋を持ち、又其上へ載せ、三は衽肩  
 を前へ折り、上前の袖襷、脇筋より五六分を控へて、向  
 へ疊み、四は裾を除き、上より裾へ半折ハシセツするなり、五は下  
 前オモの袖スズメ五六分を除き、中央より折るなり

○衣服縫方の順序

衣服を縫ふは、先づ袖を縫ひ、次は脊筋脇筋を縫ひ、  
 其次、衽セリ及び袖襷スズメ附ツケけ、裾を合すべし、單衣ヒトヘモノふれば裾  
 を折マシけ、裾スズメを附ツケるなり、縫目ヌミを脊筋セナを上より己オノの方



一折るべく、又縫縁の總て、身は前の方へ折り、袖は袖の方へ、衿も又衿の方へ折る番一

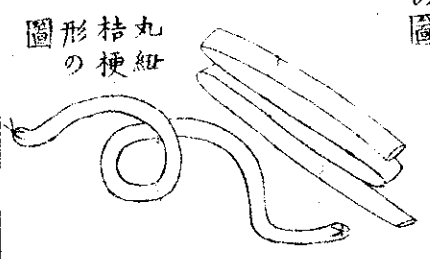
○伏縫及戻縫の法

伏縫は、多く単衣に用ゆ、總て裁ち目の解けぬ為、用ゆるものみして、縫端を折り、伏せて紵附るを云ふ。戻縫とい、單衣に限らば、總て綻び易き處を、二三寸許戻し縫ふを云ふなり。

○紐の紵方

紐を紵るふを、先づ布の中を極め、兩傍へ折を附け、次ふ身を入れ、成るべく、縫目此外より見へぬ様、兩端を

紵紐の圖



互違ひよ、紵け進むべし、其縫端を五個、ふ括りたるを、桔梗形といふ、多く腹當の紐及び、婦人、此帶又等々用ゆ。

○解物の方法并心得

解物をなすに、能く心を留めて、おま

べし、衣服の縫方及び針の止め方を知るに、自ら發明せざる所あり

通常解物の第一は、衿裏を解き、二は、裾口、三は、袖口、四は、小ハツ口と、次第を逐ふて解き、衿なれば、其次は裏表を解き、離し、綿を入れ、最後は綿を脱ぐあり。

袴

袴を解くふは、先づ第一の紐を解き、次は裾口、次は相引を解き、又其次は奥布より、中布を解き、終りに前襠後襠を解くべし、袴に種類稱呼數多あり、總て此類を解くふは、此順序に随ひ、解離を常例とす。

○衣服寸尺の取方及順序

第一、小丈を度り、二、小行、三、小袖丈、袖口、裾丈、衿丈、衿肩及び、衿巾を當り、四、小身幅、五、衿巾、小裙巾、六、八ッ口を度るべし、但し、婦人及中裁の衣服なれば、別小袖巾、袖附を度るべし。

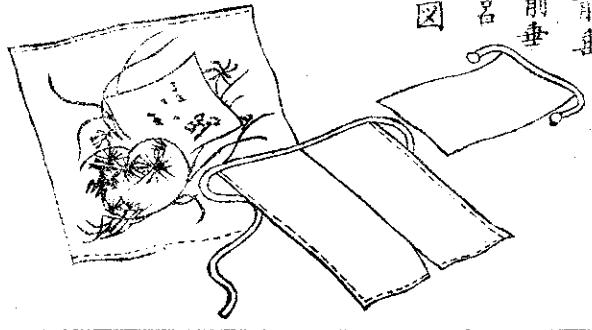
袴

袴の寸法を度るに、第一、小紐下の丈、二、小前幅、三、小後違、四、小腰板、腰巾、六、小襠の高さ、七、小袴幅、八、小蹴廻と、順次、小度るべし。

○前垂腰巻及び風呂敷の縫方

前垂を二巾及一巾の別あり、二巾物ハ、裾より二寸五分を明け、其上を伏縫ふべし、多くの両縁を白糸にて二度縫ひ戻すあり、一巾を給物多し、おれの裏表を縫返し、上より一寸明け縫ひて、其處へ紐を通したるを、通例とす。

一巾前垂  
二巾前垂  
及風呂  
敷の図



風呂敷の大小種々あるを裁録し總て三折ふなし  
然して伏せ縫ふすべし

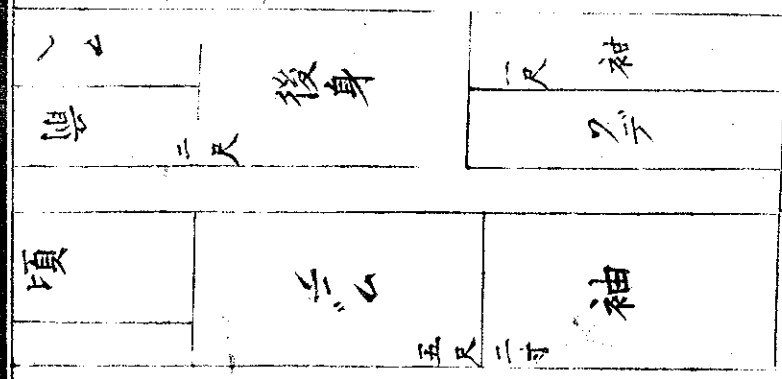
○單襦袢の裁縫方

一 身襦袢の裁縫方

裁方 常巾三尺八寸を以て、一 身襦袢を裁つ子を、第一  
一 身丈二尺を取り、次袖一尺を裁取り、残り八寸  
を豎に三個に裁断し、之を豎に継ぎ合せ、衿となし、袖  
は二個に豎に裁ち、衿肩八身の中を中央より折り、又  
それを横に半折し、たる所を八分を明け、こと、圖  
此如く、爾して、前身を豎に裁離すべし、以下總て  
解と圖とを參照し、其法を知得るべし

縫方 第一、裾を一をいよ表より縫ひ、裏より縫返  
し、第二、脇筋を縫ひ合せ、身に前へ折返し、第三、袖

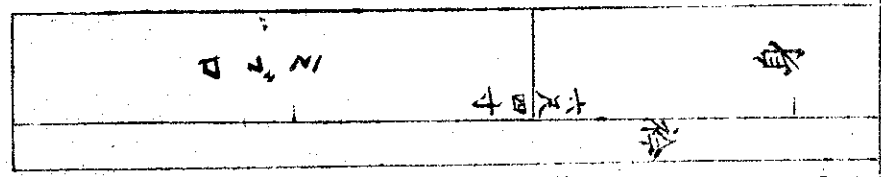
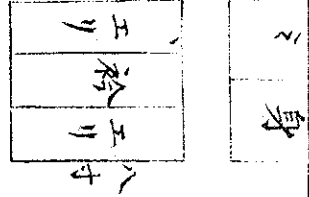
常中三尺八寸  
ヲ以テ身襦  
袴裁方  
常中一丈一尺  
六寸ヲ以テ四  
身襦袴裁方



附三寸を附け袖の方へ返し、八ツ口二寸を明け、第四は衿を附け、然る後衿の中を、八分糸紵イトあり

四身襦袴

裁方 布一丈一尺六寸を以て、四身襦袴を裁つよも、先づ兩袖五尺二寸を取り、兩身六尺四寸の脇よて、衿巾二寸を裁ち切り、其切り落したる方の身、此中央の折目よて、兩身共合せたる儘、衿肩一寸五分を明るべし

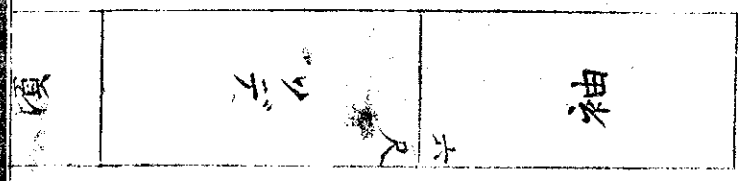
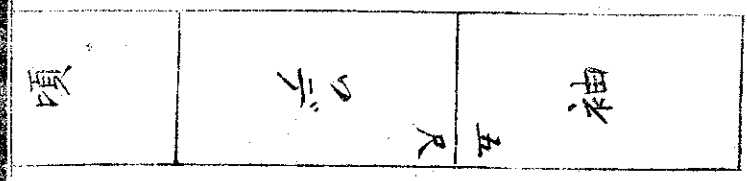


縫方 第一は袖を一むいよ表より縫ひ、裏より縫返すこと、前と同様にして、次は脊筋を一むいよ表より縫ひ、又裏より縫返し、三は脇筋を裾よて二寸五分明けて縫ひ、四は袖附五六寸を附け、身は八ツ口、二寸五分許を明け、五は衿を附多かり、但し衿山の裏へ、他は布四五寸を継ぎ加へ、終り小衿巾を一寸二分糸紵あり

本身男襦袴

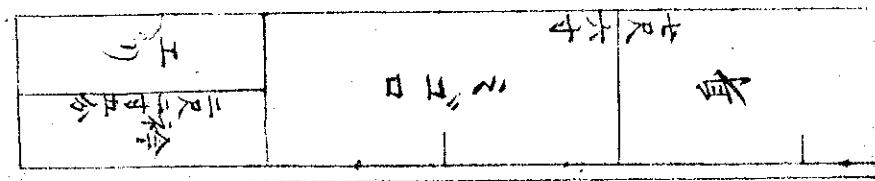
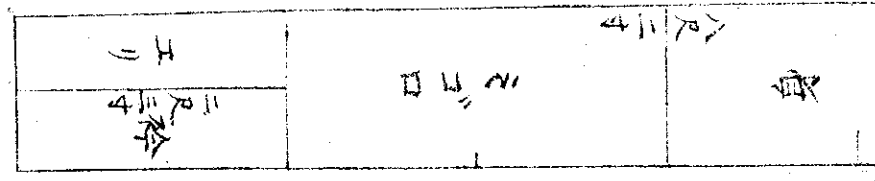
常中一丈五尺  
五寸ヲ以テ木身  
男襦袢裁方

常中一丈五尺  
八寸五分ヲ以テ  
木身女襦袢  
裁方



裁方 常中一丈五尺五寸五分、木身男襦袢を裁つ、先づ兩袖五尺、身頃八尺二寸を取り、残り二尺三寸を、タテ 縦に裁ち、ツバ 継ぐべし、之をカサ 衿山継といふ、カサ 衿肩の前同様、且上圖の如く、二寸を明る、ツバ 衿を

縫方 袖の前と一様、ツバ 次、カサ 衿を縫ひ、已ツバ 是の方へ折返し、カサ 腋筋を裾よ、ツバ て、二寸五分、カサ 明けて縫ひ、袖を附け、裾を三個、ツバ 折りて、カサ 縫ふべし



本身女襦袢

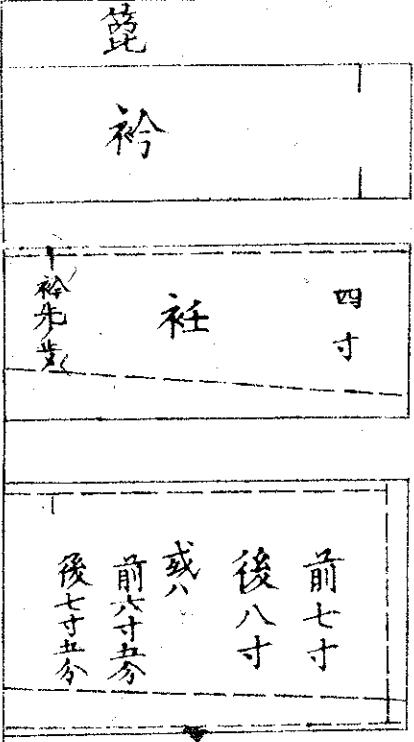
裁方 布一丈五尺八寸五分を以て、女襦袢を裁つ、ツバ 袖六尺、カサ 身七尺六寸を取り、ツバ 残り布を、カサ 縦に継ぎ、ツバ 衿山継とあし、カサ 次、ツバ 兩身を、カサ 二折、ツバ 折ふ、カサ たる所、ツバ みて、カサ 衿肩二寸二分を明るべし

縫方 袖を表より、ツバ 裾一丈、カサ 縫、ツバ 又裏より、カサ 縫返し、ツバ 二、カサ 小脊筋を縫ひ、ツバ 己の方へ折返し、カサ 三、ツバ 小脇筋を裾、カサ 二寸五分、ツバ 明けて縫ひ、カサ 袖附を適宜、ツバ 小明け、カサ 四、ツバ 小

ハッ口を明け、裾ハ三ツ折ミヅマヅあし縫ヌイひ然シカ後ノチ衿エリを縫ヌイひ附ツケ、衿エリの方カタへ折マり又裏衿ウラエリを附ツケけ新ニ付ツケるべし但シカし通ツ常ツ婦ツ人の衿エリ巾ハハ、三寸二分を以て法ホツ則ツとす

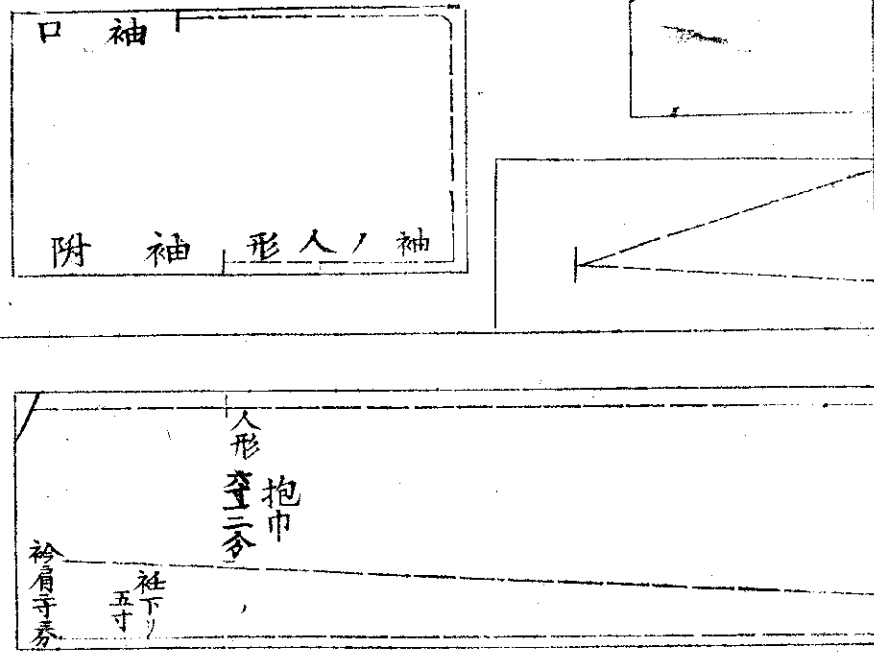
○通常本身衣服 篋附法

篋ハツを使用シするヨリ先マづ尺を以て、寸法を度り、圖ヅの如ク



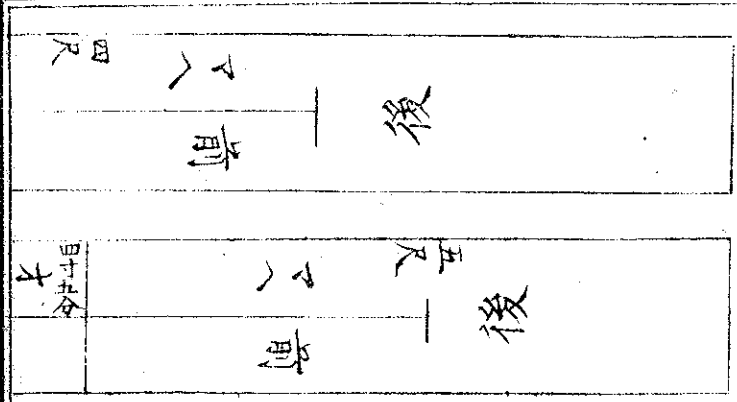
く細標キコを附ツくべし此ノ篋ハツ附ツをふすハ、總スて縫ヌ目等メの揃揃ふ為タふれば、裏表ウラオモテあるものヲ、裏表ウラオモテとも正タしく重カね置カき、

附 法



然シカ後ノチ篋ハツ附ツをべし、但シカし順序ジの、第一ノ袖カの上カを左ヒダリとなし、袖附カを己ミの方カタへ、袖口カを向ムふの方カタへ向ムけ、圖ヅ此ノ如クくすべし、次ニ衿エリ衿カとも、圖ヅ此ノ如クくを、又其次ニ小身頃コミミの、後ノチを下シとなし、前ノを上シとなし、爾ガ後ノチ袖附カを、左ヒダリの上カとな

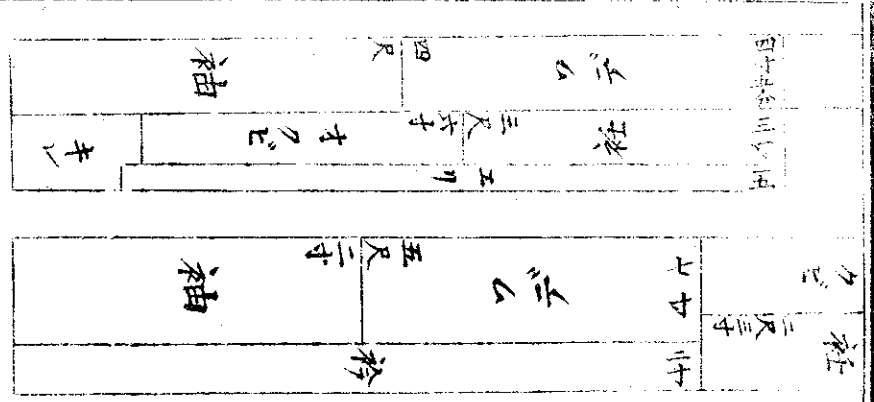
常巾八尺ヲ以テ  
通常一ツ身ノ裁方  
常巾一丈二尺  
五寸ヲ以テ通  
常大ツ身ノ  
裁方



一、圖此如く篋附すべし、但し身頃の縫込を成るべく篋及烙鋺を用ひず、折附るを宜しと以、篋附の法、大小及男女とも、概ね此の如くなれば、畧を○常中物、單衣裁縫方

一ツ身小單衣裁縫方

裁方 八尺を以て、通常一ツ身を裁つふと、先づ中央より二個を裁断し、半分即ち四尺を兩身とす、又残り四尺を豎ふ、裁放し、半を兩袖とす、



又其残りにて、衿巾三寸及び衿どなす、兩袖とい、各二尺宛ふ中央より裁截するなり、衿肩の先づ身を豎ふ半折し、又それを中央より折りたる處みて、八九分を明けるとや、圖の如くなすべし

縫方 第一、袖を表より裾一どいふ縫ひ、裏より縫返し、二、脇筋を縫ひ、身の前へ折り返し、三、袖附三寸五分を附け、袖の方へ返し、身は八口

三寸を明け、四寸衽を巾一丈いふ附け、裾口五寸許を  
折れ、五寸衽下り三寸を下げ、然る後衿を附け、衿巾残  
折れ、終りに裾を折れ附けるべし

裁縫の法、単衣を以て、粗一體を具へたるも、此とん故  
よ先づ其裁方を紙或は石盤等よ自ら屢圖解して、そ  
の大體を記せらるべし

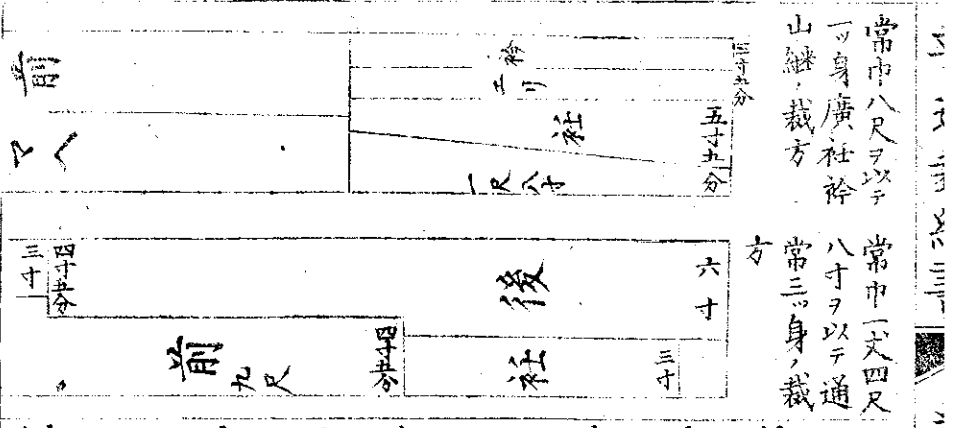
次よ白紙を長く截断し、堅よ継ぎ合せ、摸縮して布此  
幾分よ形どり、實物よ換用し、これを裁縫するに、  
能く鍊熟し、然して後始め、實物よ就き學習をべし  
こ乃圖解より、雛形を裁ち、及縫ふことよ、熟するに

實物を裁縫するよ、更よ異あるよとなく、只其形よ  
の小さきのよふれば、總て襦袢より、漸次此法を鍊習  
すべし、輕便よして容易く、自得をべきなり

一身大單衣裁縫方

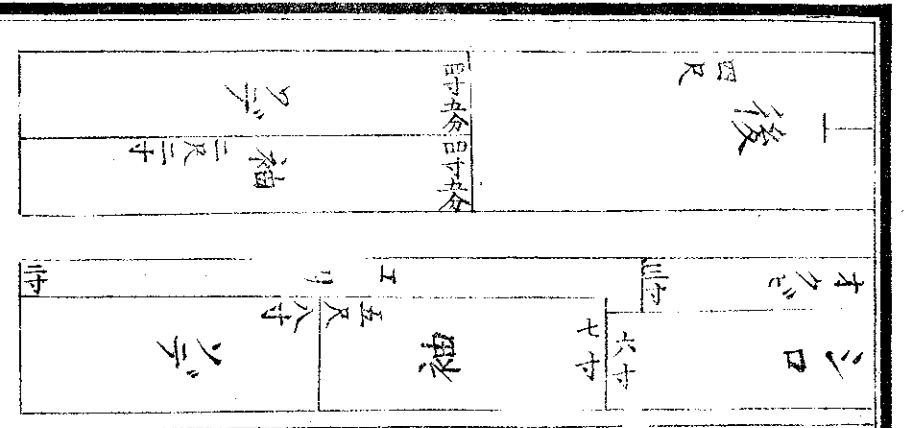
裁方 一丈二尺五寸を以て、通常大一身を裁つよを、  
先づ兩袖五尺二寸を取り、其片縁巾二寸を以て衿と  
ふし、残り二尺三寸を堅よ裁放し、兩衽となり、衿肩を  
明け、ること、前の小一身と、同様なりと知るべし  
縫方 總て小一身縫方と一様なれども、袖附を四寸  
乃至六寸を、男女よ従ひ、適宜よ附けるべし





○一身分廣社袴山継裁縫方  
裁方 八尺を以て、廣社袴山継の裁法を先づ身四尺を取り、次小二尺三寸を豎よ裁故し、兩袖となし、残り一尺八寸の内、巾五寸五分を斜小圖の如く裁ちて、兩社となし、其片縁三寸五分を豎よ切断し、継ぎて衿とし、又身を豎小折り、又これを半折せる可ふて、衿肩一寸を明けるべし

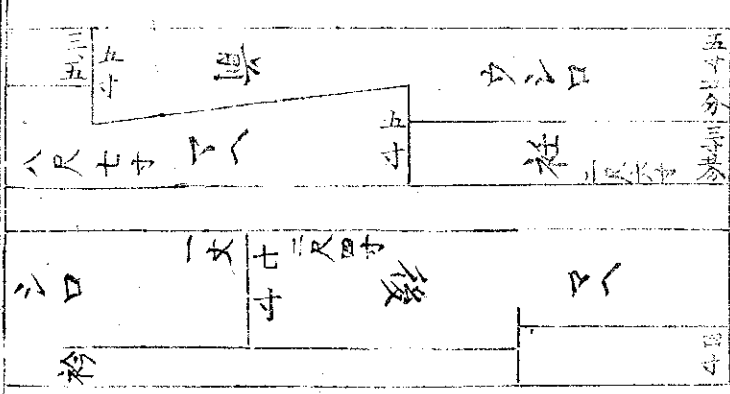
縫方 第一は袖、次小脇筋を縫ひ、袖



附四五寸を附け、身北八口三寸を明け、社を附るとき、單衣なれば、返し縫ふなし、次小衿を附け、又衿を紵け、後裾を紵るなり

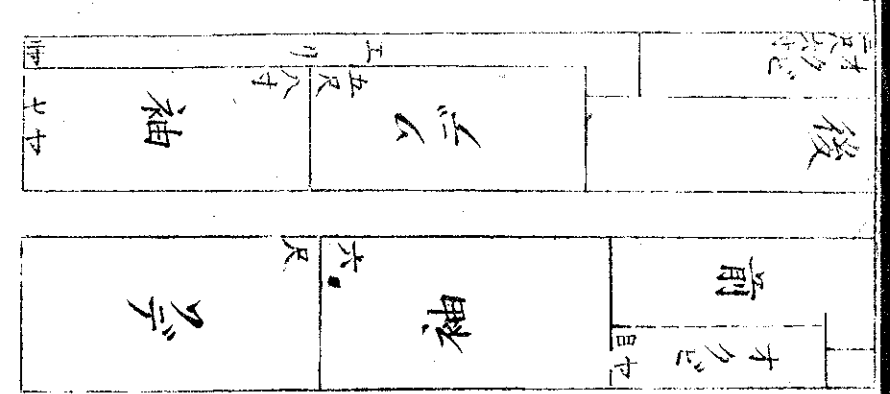
○通常三身裁縫方  
裁方 一丈四尺八寸を以て、三身尋常の裁方へ、先づ兩袖五尺八寸を取り、又其片縁めて、巾二寸の衿を取り、三尺丈の三身となし、身北前めて裁違ひよあし、身の後めて、社各巾を三

常中一丈四尺五寸  
 三身廣前  
 常中一丈九尺  
 四寸ヲ以テ四身  
 裁ノ方  
 袖ノ裁方



寸裁取<sub>ル</sub>コセ、圖<sub>ニ</sub>比<sub>シ</sub>如<sub>ク</sub>裁<sub>ム</sub>べし

縫<sub>方</sub> 最<sub>初</sub>袖<sub>を</sub>表<sub>より</sub>裾<sub>一</sub>をい  
 り縫<sub>ひ</sub>裏<sub>より</sub>縫<sub>返</sub>し、二<sub>よ</sub>脊<sub>筋</sub>を縫<sub>ひ</sub>  
 ひ、上<sub>より</sub>前<sub>へ</sub>折<sub>返</sub>し、脇<sub>筋</sub>を縫<sub>ひ</sub>袖<sub>附</sub>  
 五<sub>寸</sub>を附<sub>け</sub>袖<sub>の方</sub>へ返<sub>し</sub>、身<sub>比</sub>八  
 口<sub>三</sub>寸を明<sub>け</sub>、衿<sub>を</sub>中<sub>一</sub>をい<sub>れ</sub>附<sub>け</sub>  
 裾<sub>口</sub>六<sub>寸</sub>許<sub>を</sub>紵<sub>け</sub>、衿<sub>下</sub>り三<sub>寸</sub>五<sub>分</sub>  
 を下<sub>げ</sub>後<sub>小</sub>衿<sub>を</sub>附<sub>け</sub>、衿<sub>中</sub>を一<sub>寸</sub>或<sub>は</sub>  
 一<sub>寸</sub>二<sub>三</sub>分<sub>を</sub>紵<sub>け</sub>、爾<sub>後</sub>後<sub>裾</sub>を  
 紵<sub>け</sub>べし

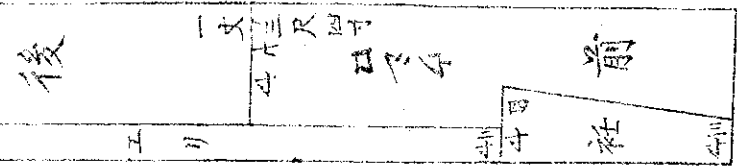


三身廣前裁の裁法

裁方 一丈四尺五寸を以て、三身廣  
 前を裁つ、小<sub>ハ</sub>第一<sub>小</sub>兩袖<sub>五尺八寸</sub>  
 を取<sub>り</sub>、其片<sub>端</sub>よ<sub>て</sub>衿<sub>二寸</sub>を裁<sub>ち</sub>切<sub>り</sub>  
 り、身<sub>八尺七寸</sub>を三<sub>個</sub>小<sub>折</sub>き、即<sub>ち</sub>  
 二<sub>尺九寸</sub>丈とある、其身<sub>を</sub>上<sub>よ</sub>て四  
 寸<sub>下</sub>よ<sub>て</sub>五<sub>寸</sub>比<sub>裁</sub>違<sub>と</sub>あり、身<sub>の</sub>後  
 みて、衿<sub>巾</sub>各<sub>三寸</sub>を裁<sub>取</sub>るべし

縫方 此法<sub>前</sub>の、通常<sub>三身</sub>縫<sub>方</sub>と一  
 様<sub>あり</sub>、前<sub>小</sub>倣<sub>ひ</sub>縫<sub>ふ</sub>べし

常中一丈九尺四寸以テ四ツ身逆社裁方



○四ツ身摘み社裁縫方

裁方 一丈九尺四寸を以て、四ツ身摘み社裁法、第一丸巾みく、両袖六尺を取り、残り一丈三尺四寸を、四ツ身折るやきた、即ち身北丈三尺三寸五分となる、其身の後みく、中二寸の衿を裁取り、然して後ち、身北前よて兩社を、摘み縫ふ事、圖北如くなすべし

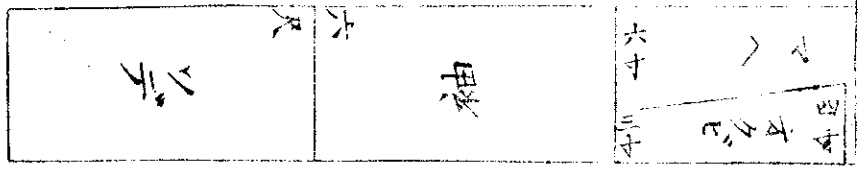
縫方 先づ通常四ツ身なすべし、袖巾七寸五分、或ハ八寸位も縫ひ、其他縫方の總て、三身縫方の順序も從ひ、社ハ圖の如く、摘み縫ふ

なすべし

四ツ身逆社の裁縫方

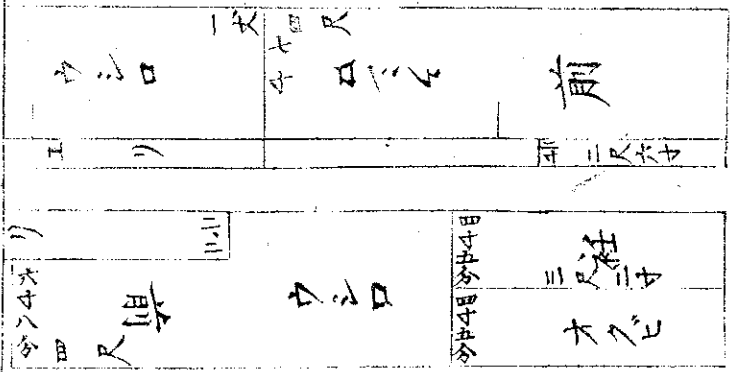
裁方 一丈九尺四寸の内、先づ兩袖六尺を丸巾みく取り、兩身一丈三尺四寸を、四個ふ折りたるを、其儘後身よて、衿巾二寸取り、身北前よて、兩社を上あて四寸、下よて三寸を裁ち取るべし、之を逆社裁といふ

縫方 第一丸袖巾を先づ七寸五分乃至八寸も縫ふこと、摘み社縫方と一樣よて縫方の順序ハ、總て前の縫方も倣ふべし



常巾一丈三尺  
二寸ヲ以テ四ツ  
身車裁ノ法

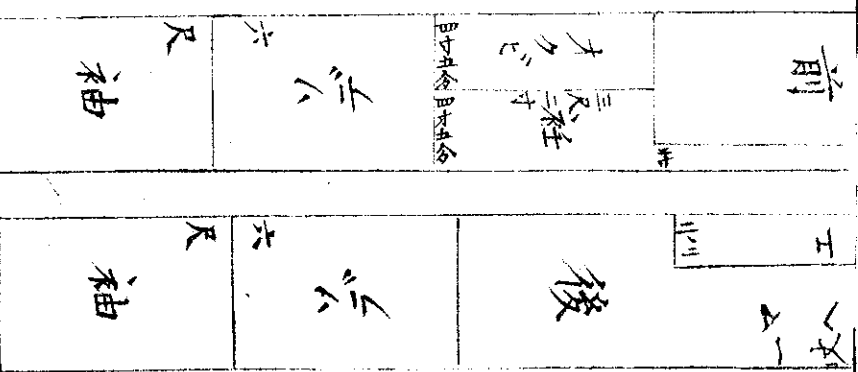
常巾二丈三尺  
二寸ヲ以テ間  
中裁ノ方



四身車裁の裁縫方

裁方 第一小、兩袖を丸巾よて取り、次小三尺二寸を、豎小裁切して、兩衽をなし、跡一丈四尺あて、身の前後を取り、又其片縁あて、巾二寸比衿を取り、又此内二尺六寸を袖口とふす。此裁方の較多く寸尺を要されども、兩身繰換するを得べき故に以て久しく耐一むる小益あり

縫方 第一小、袖より脊筋脇筋と次



弟を逐ふて縫ふこと、總て前法と同

間中裁縫方

裁方 二丈三尺二寸を以て、間中を裁つぬえ、第一小、兩袖六尺を取り、次は兩身一丈四尺を、四個小折るべきと、即ち三尺五寸丈とふる、此内兩身の前よて巾二寸二分比衿を裁ち取るまと圖の如くあり、又残り三尺二寸は、豎小裁放し、兩衽とふる、これ四

身と本身の間中なるを以て、稱して間中裁といふ

リ

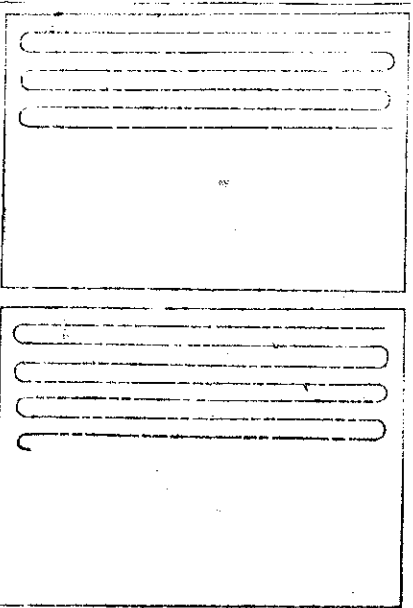
縫方 概しね前の三身及四身と一様なれども、此縫方此如きハ先づ袖下より、直小袖向ふ口明までを縫ひ、次ハ脊筋を一寸を縫込むべし、又脊筋を縫ふハ、其裁目亂れぬため、總て表より一度縫ひ置き、これ裏より縫返とを定法といふ

○躰系の掛方及襷物の仕方

躰系ハ袖口、裾及裾口ふどの縫目を正しくする為ふき、初心より殊に必用といふ

襷物を為すの法ハ、綿布ふれば、木綿比雙子糸を以て、縮布ふれば、下子の縮糸を以て、成るべく細くして、且強き代擇ふべし、其襷り方ハ左圖の如く、表面へ成るべく、糸目比細のふりて、目立ぬよふ襷るべし、但し此は掲ぐるは裏面ふりと知るべし

綿布綴り圖

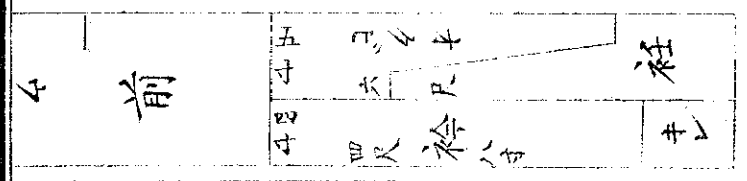
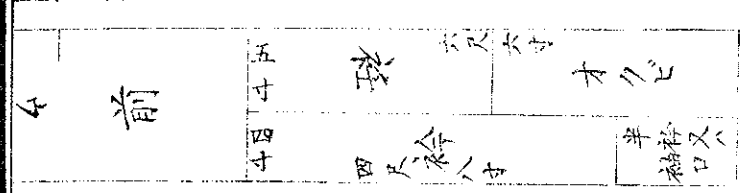


縮布綴り圖

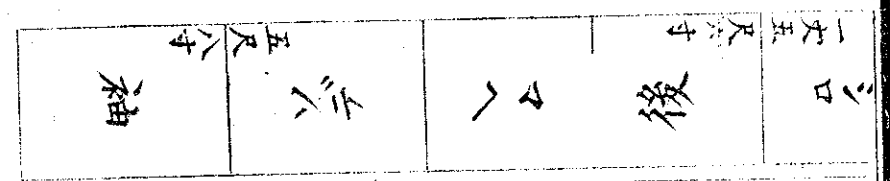
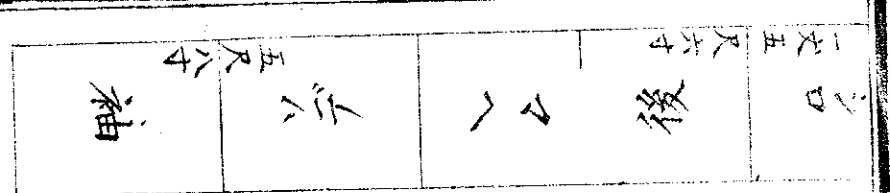
○本身棒裁の法

裁方 二丈八尺を以て、本身棒裁の法を先づ袖五八寸、身一丈五尺六寸を取

常巾二丈八尺  
以テ本身棒裁  
半衿附裁法



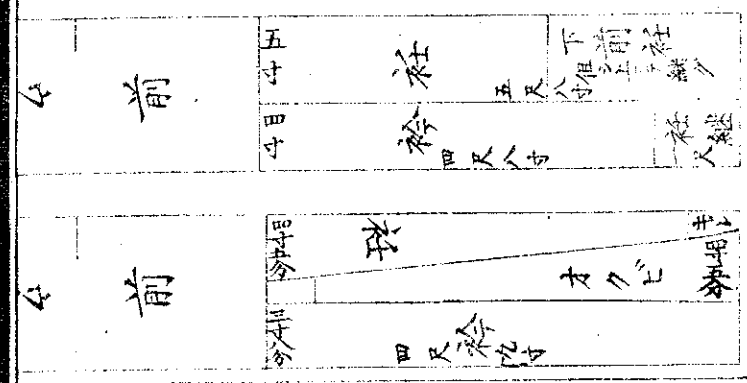
り六尺六寸を豎タテ巾五寸ヲ裁切し、  
又之を横ヨコに断キちて兩衿リツツとふし、其片  
縁の内、四尺八寸を衿カサとなし、残布ハ  
半衿ハジツツ又ハ、袖口スリーブとなすべし、乃ち袖五  
尺八寸を四ツツ折マぎ、一尺四寸五分  
の袖裁スリーブとふ、又身一丈五尺六寸を  
四個ツ折マぎ、三尺九寸とふ、其上  
の折目マよて、衿肩カサ二寸三分を明アける  
べし、之を抹衿ハジツツ半衿附ハジツツの裁法カサとん  
縫方 前同断ハジツツ



本身鍵裁カサの裁法  
裁方 二丈七尺四寸を以て、鍵裁カサを  
なす、先袖カサ五尺八寸、身一丈五尺六  
寸を取り、兩身リツツとふ、又之を半折ハジツツ  
をとり、折目マよて、衿肩カサ二寸二分を  
明アけるあり、又残り六尺六寸、衿中四  
寸を裁取り、衿カサ八寸の鍵裁カサとなす  
こぎ、圖ツの如くあり、其衿カサ比残り布ハ  
單衣ハジツツふれむ、臀當ハジツツとふすも宜ヨシし、但し  
臀當ハジツツハ、裾ハジツツより八九寸上ツへ附ツるべし

常巾二丈六尺八寸  
ヲ以下前継棒  
裁ノ法

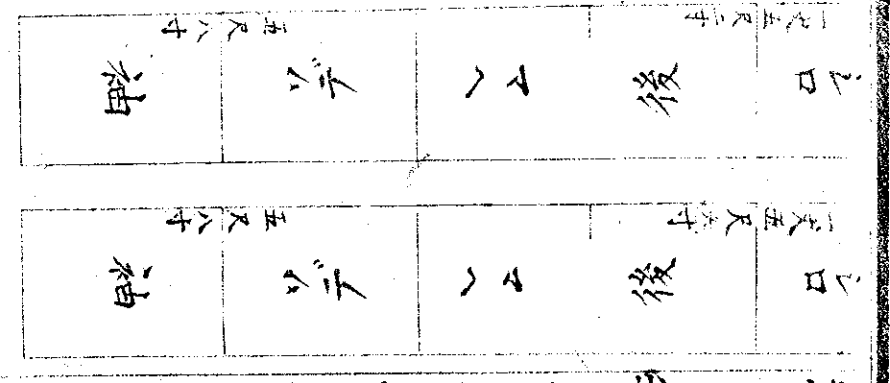
常巾二丈六尺  
三寸ヲ以下柳  
裁ノ法



縫方 前同断ふれども、總て裁法の  
針ハなかりたる如きハ、引釣ヒらぬよハ  
縫ヒ一ハ後皆之ハ倣ヒ注意スまハべハ

本身上前継棒裁の法

裁方 先づ五尺八寸を兩袖と一  
丈五尺二寸を以て、兩身とふす、其兩  
身中央の折目ヲみて、衿肩ニ寸二分を  
明け、残り五尺八寸の内、衿中ニ四寸長  
四尺八寸を取り、跡一尺を社の下前  
継キ合ヒまハべハ

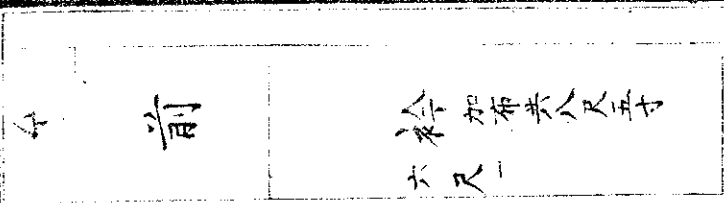


縫方 前同断

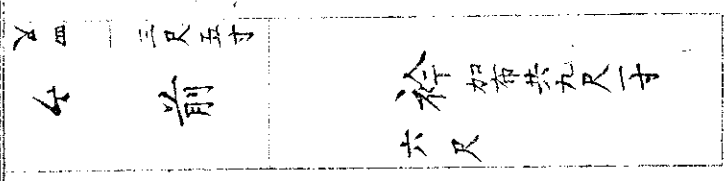
本身柳裁の法

裁方 此法第一、兩袖五尺八寸、次  
小身一丈五尺六寸を取り、之を兩身  
よ裁切ヒ、又其次、衿肩ニ三分を明  
けるコ、前と同法ヲみて、残り四尺九  
寸ヲ、中三寸八分の衿ヲを取り、其跡  
みて、衿ヲを七三ニ斜ニ裁ヒ故スこと、圖  
の如くヲあすべし、然るとも、其兩端  
よ切キ各一尺餘ヲなり、之を柳裁ノ

半衿下二尺五寸  
加布ヲ以通  
常女合羽ノ裁方



半衿下一尺六寸  
加布ヲ以テ  
帶溜リ附女合羽裁方



法といふ

縫方 前同断

○女合羽裁縫方

通常女合羽の法但常中二丈八尺物

裁方 二丈八尺の内袖六尺身一丈六尺を取り残り六尺を横小半切とし、其中へ二尺五寸の加布を半衿の下へ継ぎ然して鏡付を為さば、これ乃ち四尺丈の女合羽といふ

縫方 第一は袖より脊筋脇筋を縫

ひ裾を折り衿巾上よて三寸強下ふて四寸小斜めを折を附けて縫ひ又之を衿の裏より縫附けるべし

帶溜り附女合羽の法但常中二丈七尺六寸物

裁方 始めの順序へ前法と一様よて終りに衿肩を明けらふ當り兩身を齊く重ね置前丈三尺五寸後丈四尺三寸の處ふる上みて二寸三四ふとふし後寸法を定め鏡附をばし

縫方 先づ袖より脊筋を縫ひ脊の



上より、一尺一寸許下りたる處トコロふて、後八寸の猶なほ布を、  
 後身の脇筋わきすぢより上二寸、下二寸ふ折マるマせき、八寸の  
 溜たまを生なままべし、又衿えりふ一尺六寸の、加布かふを用ひ縫ぬべし  
 ○洗濯及び張物の略法  
 洗濯せんたくを為なすハ、通常灰汁はいじゆを以もてす、白布しろふふれば、石鹼いしけん  
 水みづを用もちゆ、總すべて衣服いふくを脱ぬきたるマ、直ただちハ濯すすふと、  
 容易やすく汚垢よごがを洗せん落れし得えべし、張物はりものの法、板張いたはり及お刺子張はりこ  
 等らあり、板張いたはりとハ、糊かを附つけ、板いた張はりり、刺子張はりこハ、刷毛はき  
 糊かを附つるハあり、布縁ふりの伸縮のびぢぢふまき様よう、注意ちゆういすべし  
 普通裁縫書卷上終

明治十六年四月廿六日版權免許  
 同 年十一月十五日出版

編輯人 中尾宗七

南區塩町四丁目  
十二番地

大阪府平民

出版人 前川善兵衛

東區南久寶寺町四丁目  
八番地

科 會 社